

# 統合失調症は中・高校生でもみつかれる病気 専門医の手助けと家族の理解・協力が必須

カウンセリングなどのサポートではなかなか改善しない不登校・引きこもりの子どもたち。その中には、統合失調症が原因となっているケースがあるかもしれません。統合失調症は早めの気づきと適切な対応で、十分にコントロールでき、普通の生活を取り戻すことのできる病気です。

不登校や引きこもりの原因の中に  
統合失調症が隠れているかも

心と体の発達が進んで、  
ラッパになりやすい思春  
期には、自分自身でコン  
トロールできない精神的  
な悩みや、不安を抱えて  
いる子どもたちも少なく  
ありません。口数が減り、  
元気がなく情緒不安定、  
いつの間にか不登校や引  
きこもりになってしまう  
ケースも珍しくありません。  
心と体の発達が進んで、  
時間がたてば乗り越えら  
れることができる思春期特  
有のものなのか、いじめ  
などの対人関係に気がつ  
けるようになったら、統合失調  
症では、カウンセリング  
だけでは不十分で、  
早めに精神科専門医  
を受診する必要があります。

妄想、幻覚(幻聴・幻視)、意欲の低下:  
発症後、再発を繰り返しやすい

統合失調症は、130  
人に1人の確率で発症す  
る、頻度の高い病気です。  
20歳未満の思春期に初め  
て症状に気づくこともあ  
るのですが、一度治まっ  
たと思えても、服薬を怠  
ったり、無理を続けたり  
すると再発の危険性があ  
ります。  
代表的な症状は妄想、  
せん。生まれつきの体質  
に、心理社会的ストレス  
も関係していると考えら  
れています。  
統合失調症は慢性疾患  
の一つ。発症してから治  
療を開始するまでの時間  
が短いほど、回復の可  
能性が高いと言われてい  
ます。

## 地域の先生に聞きました

### ささいな変化に注意し 気軽に専門医へ相談を



櫻和メンタルクリニック  
(豊島区巢鴨)  
院長 山野かおる先生  
慶應義塾大学文学部卒業後、企  
業勤務を経て信州大学医学部  
卒業。病院勤務を経て現職。  
児童精神科外来や特別支援学  
校・発達支援センターの嘱託  
医など経験多数。精神保健指定  
医、精神科専門医・指導医、日  
本児童青年精神医学会認定医

統合失調症は特別な病気ではありません。思春期に発症しやすいので、親は子どものささいな変化に気づけるよう、日ごろからコミュニケーションをとり、普段の状態を知っておくことが大切です。昼夜逆転、不安が強くなる、妙に潔癖になるなど、気になることが出てきたら、「しばらく様子をみよう』『そのうちに変わる』と見過ごさず、「相談してみようよ」と一緒に受診してみましょう。うつ病や、発達障害、反抗期などとの見極めが必要だからです。最初は無理に子どもを連れてこなくても大丈夫。まず親が専門医の意見を聞くことから始めましょう。

### 【統合失調症で見られる主な症状】

- 妄想 現実にはありえない考えが頭に浮かぶ。「友人が自分の悪口を言っている」などと、しきりに訴える。家族が否定しても「自分は正しい」と思い込む
- 幻覚(幻聴・幻視) 現実にはない声が聞こえたり、ものが見えたりする
- させられ体験 行動や考えが誰かに操られていると感じる体験をする
- 感情鈍麻 怒る、笑う、喜ぶ、悲しむなどの感情が乏しくなる
- 意欲の低下 以前は好きだったものに興味を示さなくなる
- 会話の減少 話しかけてもあまり反応しなくなる

※思い当たる症状がある場合は、統合失調症の可能性があります。一度、精神科専門医で診察を

治療の柱は薬物療法の継続  
家族の理解と協力が大事

統合失調症の治療は、  
薬物療法により症状を抑  
えたい一方で、回復に向け  
て心理社会的治療(カウ  
ンセリング)などを行う  
ことが一般的です。薬物  
療法では、抗精神病薬を  
中心に、症状に応じて睡  
眠薬や抗不安薬、気分安  
定薬などを使うこともあ  
ります。調子が良くなっ  
てきたからと勝手に服薬  
を止めてしまうのが最も  
危険なこと。これが再発  
を引き起こし、症状悪化  
につながります。  
まずは家族が、この病  
気のことを正しく理解す  
ることが治療の第一歩で  
す。そして、医師と相談  
しながら、状態に合わせ  
て薬の量や種類を調節  
し、根気よく治療を継続  
することが重要です。  
統合失調症は、精神科  
専門医の手助けと、適切  
な治療が必要な病気な  
ので、治療開始のタイミ  
ングを逃さないために  
気をつけてあげたいもの  
です。